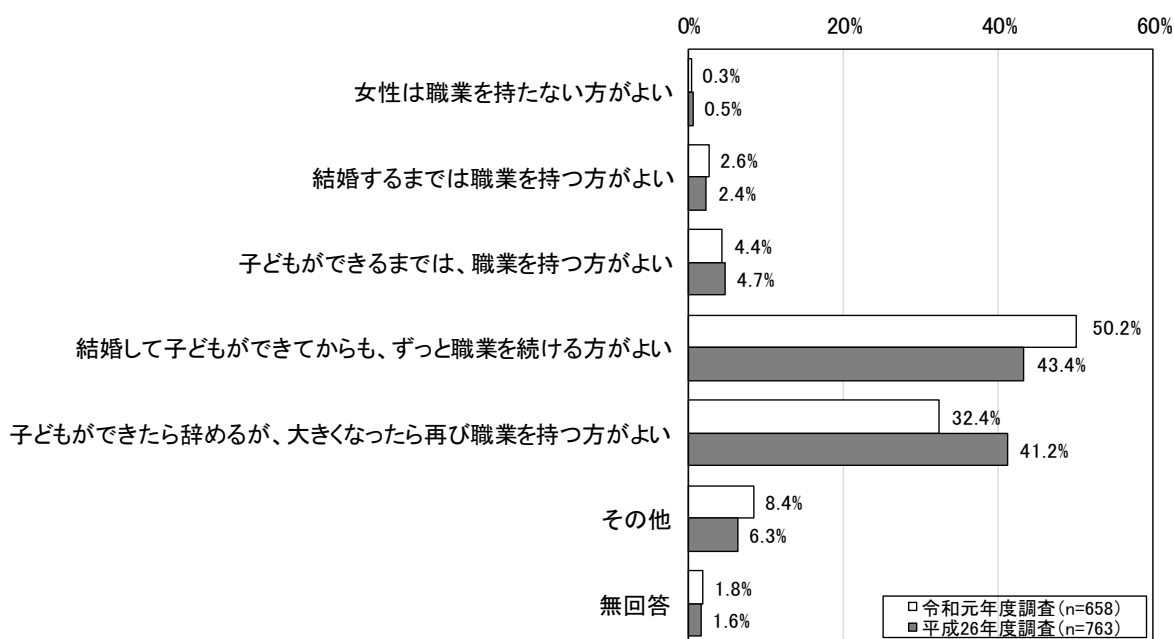


6. 就労について

問 14 あなたは、一般的に女性が職業を持つことについて、どう考えますか。(1つだけに○)

一般的に女性が職業を持つことについての考えでは、「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」が50.2%と最も多く、次いで「子どもができたなら辞めるが、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が32.4%、「その他」が8.4%となっています。

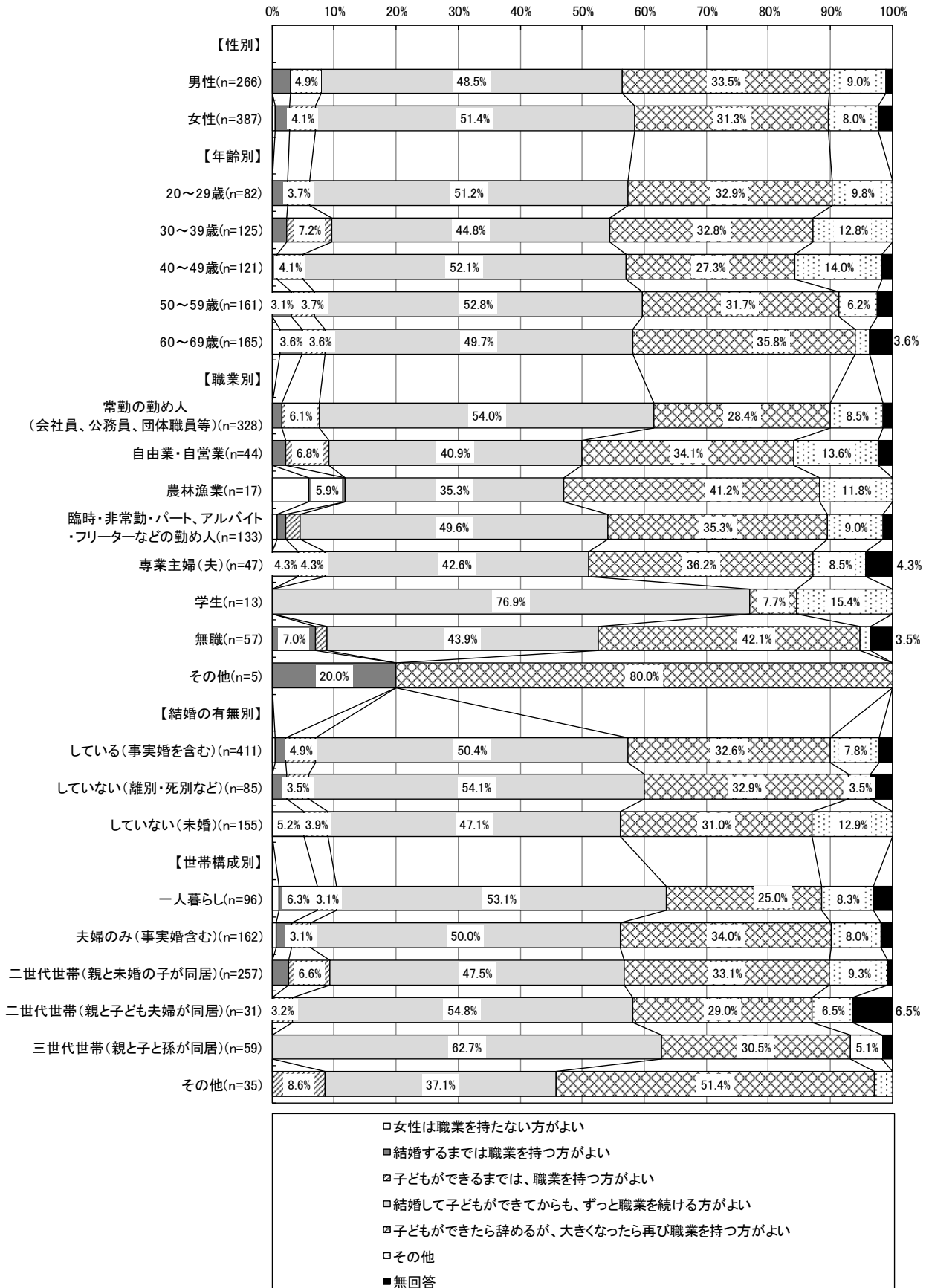
前回調査と比較すると、「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」では、6.8ポイント今回調査で多くなっています。



【属性別】

性別で比較すると、「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」では、男性よりも女性がやや多くなっています。

年齢別で比較すると、「結婚して子どもができてからも、ずっと職業を続ける方がよい」では、「30～39歳」以外で約5割となっています。



その他の回答

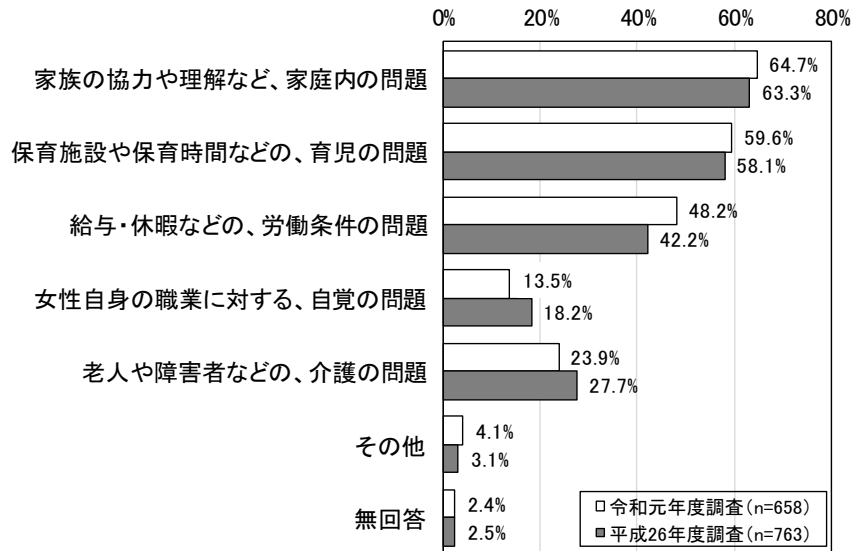
- 沼田の収入では女性も共働きで支えないと生活できない。私としては子育てに集中できる環境が良いと思います。
- 女性が職業につきたいと言えればいいと思う
- 結婚するまでは、その人自身の考え方でいいし、家庭をもったら旦那さんと話し合いをして子供ができ、話ができるようになったら子供にも話、子供の気持ちも聞いてみんなが納得しないと家事も全て一人でするようになってしまうかもしれません。
- 個人の考え次第で良い
- 個人の自由だが女性だから、出産や育児でやめなければならない状況になるのは良くないと思う
- 基本的には賛成、ただ子育てや定年後の働き方は他職員に負担がかかるような時は個人が働き方を考えてほしい
- 本人の意思の尊重がよい。仕事はやりたい人がやれる社会がいい。専業主婦希望で、子育てをしたい人は無理に働く必要もないし、働きたい人は働くのをあきらめるような状況にならないよう、制度が充実すれば働けると思う。
- 本人の考え
- 1～5が選べる社会の仕組み
- 働きたければ働けばいい
- 自分の意思で判断するべきなので一概には言えない
- 仕事が好きなら結婚しても子供を産んでも続けるのが良いし、家事などが好きで働く必要がなければ働かなくていいと思う。
- 1～5のどれを選んでも間違いではない。個人の自由だと思う。
- 生きがいや経済面を考えると
- やりたければやれば良い
- 休暇が適切にとれるのなら職業は持っていた方がよい（育児、介護）
- 金銭面や時間を考慮してその時々で考えればいい
- 好きにしてください
- 夫婦のライフスタイル次第
- 本人の好きなようにすれば良い！
- その人に合った就労が選択できるといい
- 夫婦での話し合いで決めればよいと思う
- 女性の意思が尊重されるのがよい
- 結婚や出産後も女性が仕事を続けたかったら、周りの環境が整っていたり、理解を示してもらえたら女性は幸せだと思います。続けたくない時も同様だと思います。
- 本人の自由でよい
- 持つことも辞めることも続けることも個人の自由
- 男性が職業を持つことについてなぜ問わないのか
- 個人の自由
- 個々の考え方しだいだと思う
- 本人の好きなようにすればよいと思う
- 職業は持ちたいと思った人が持てば良いと思う

- 女性それぞれの考えで良いと思う。
- 良いとも悪いとも思わない
- どっちでも良い。男女問わず適性に合わせるがよい。
- 人によって状況が違うので一言では片付けられません。どれも正解だと思います。
- 個人の好きなような選択をすればよい
- 女性の自由にすれば良い。
- 経済的に余裕があれば辞めてもよい
- 一般化しにくい事だと思う
- ケースバイケースだと思う
- それぞれだと思います
- 個人の自由
- 4だが育児に支障が出すぎたら困る
- 出産、育児に合わせて仕事量を減らしてでも続けやすいのが良い
- 時短で働ける仕事をもっとあればいいと思う
- 4に近いがその時の状況により短時間にするなど
- 人それぞれなのでその人に良い形がいい
- 個人の価値観によるので何とも言えない
- 女性といえども職に就くべき
- 無理なくすればいい
- 個人の自由
- 会社が産休を当たり前にとれる環境がほしい。またその後子供を育てやすい事も・・・。

問 15 あなたは、女性が仕事をしていると、どのような問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

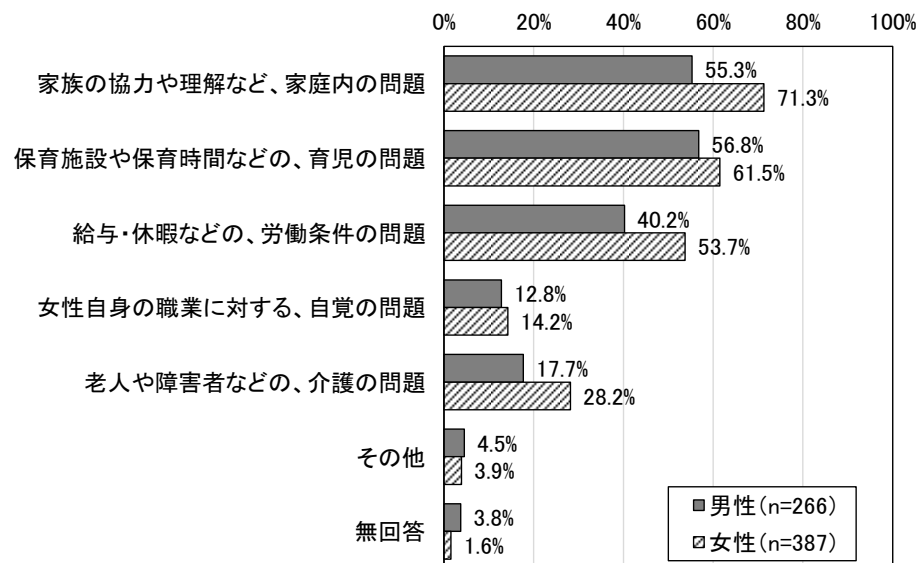
女性が仕事をしていると、どのような問題があると思うかでは、「家族の協力や理解など、家庭内の問題」が 64.7%と最も多く、次いで「保育施設や保育時間などの、育児の問題」が 59.6%、「給与・休暇などの、労働条件の問題」が 48.2%となっています。

前回調査と比較すると、「給与・休暇などの、労働条件の問題」では、6.0ポイント今回調査で多くなっています。



【性別】

性別で比較すると、「家族の協力や理解など、家庭内の問題」では 16.0ポイント、「給与・休暇などの、労働条件の問題」では、13.5ポイント、「老人や障害者などの、介護の問題」では、10.5ポイント男性よりも女性が多くなっています。

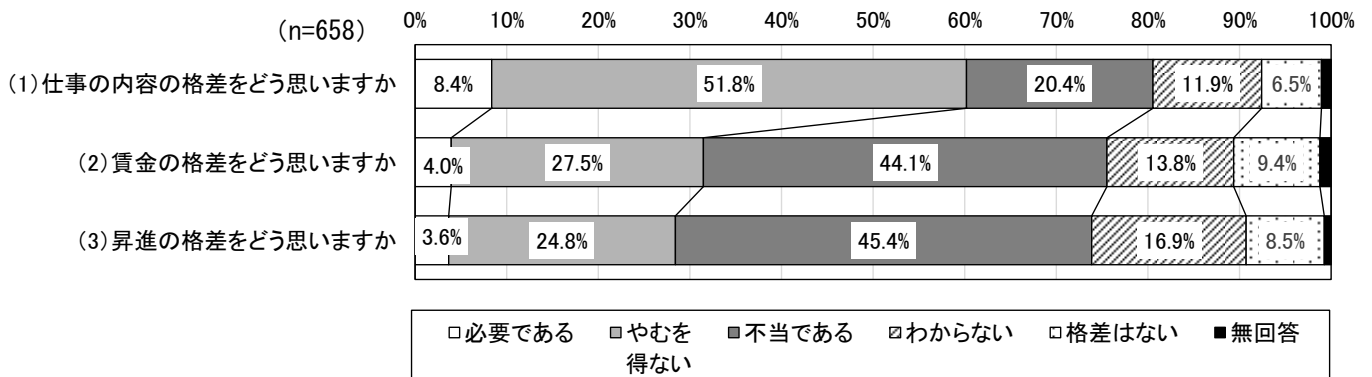


その他の回答

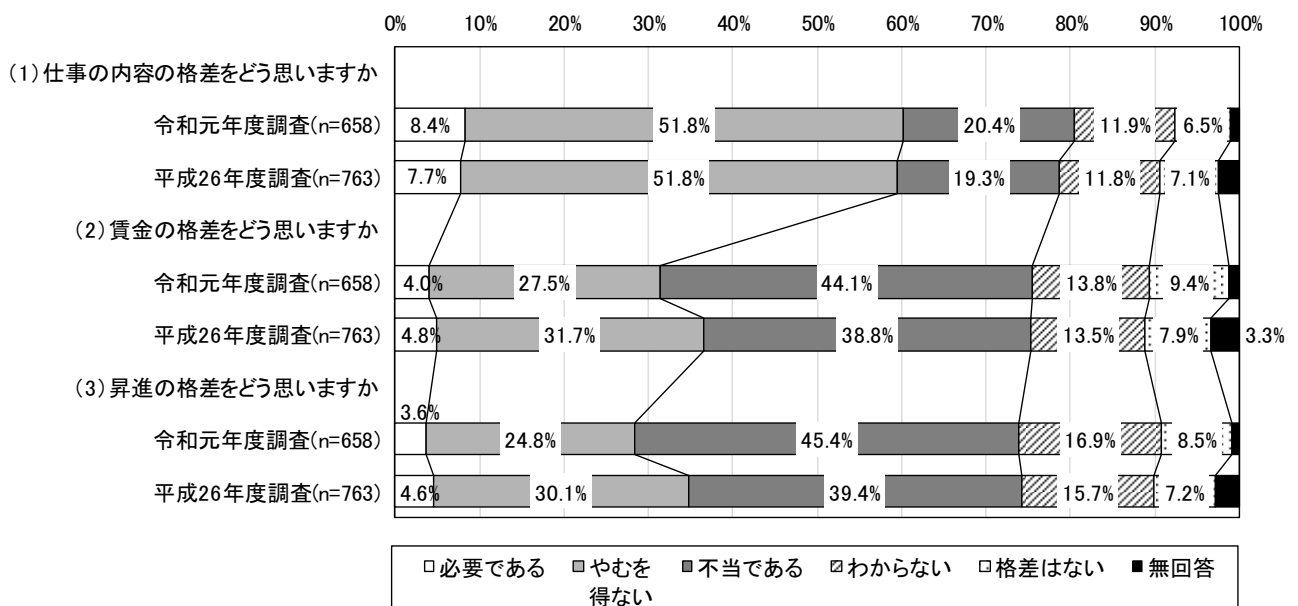
- 子の体調不良や行事のときに仕事を休むことを申し訳なく感じてしまう。
- 体調など女性特有のもの
- 独身時は男女ともに③、結婚し子供ができたなら②
- 1～5すべて。1人1人の意識。
- 仕事をすると問題が生じるという質問が愚か
- 女性が仕事をしているとどのような問題があるとおもいますか、という質問がすでに問題だと思えます。
- この設問そのものが共同参画を否定するものではないでしょうか？
- 仕事と家事の両立
- 職場の上司の理解（異動により、上司が話のわかる人とわからない人がいる）
- 娘は働きたくても扶養控除の問題で働けない（日数）。（限度額が少なすぎる。）
- 理屈ではなく感情的に仕事をされる。
- 上記に理解のない周りの人間や社会の問題。特に子育てをしている人が子供の急な熱などで休む時に文句を言う人が多い。
- 子どもの急な体調不良で会社を休むと会社で立場が悪くなる。子供がかわいそうでフルタイムは難しい。
- ないと思う
- 子どもの調子が悪い時に、やむなく休むことへの理解
- 周囲から家庭に入らないことに対する偏見
- 男性なので分からない。
- 続けるための職場の問題
- 保育施設にあずけても子供が体調不良になって急に仕事を休まなくてはいけない時に仕事が休みにくそうなイメージがあります。子供が体調を崩すことはよくあることなので、その時に仕事が休める職場づくりがあると良いなあと思います。
- 子供がさみしい思いをする

問 16 あなたは、仕事の上で一般的に男性と女性が異なる立場に置かれていることについて、どう思いますか。(それぞれ1つに○)

仕事の上で一般的に男性と女性が異なる立場に置かれていることについて、どう思うかでは、「(1) 仕事の内容の格差をどう思いますか」の項目では、「やむを得ない」が5割を超えています。「(2) 賃金の格差をどう思いますか」「(3) 昇進の格差をどう思いますか」の項目では、「不当である」がそれぞれ4割を超えています。

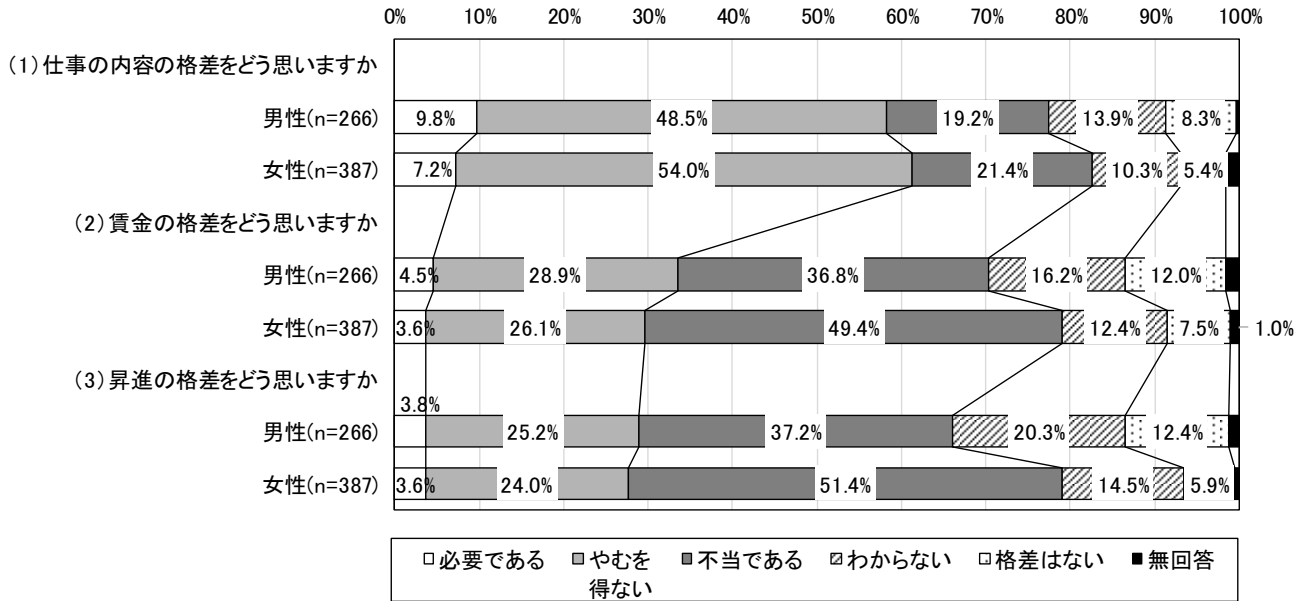


前回調査と比較すると、「(2) 賃金の格差をどう思いますか」「(3) 昇進の格差をどう思いますか」では、「不当である」が今回調査で多くなっています。



【性別】

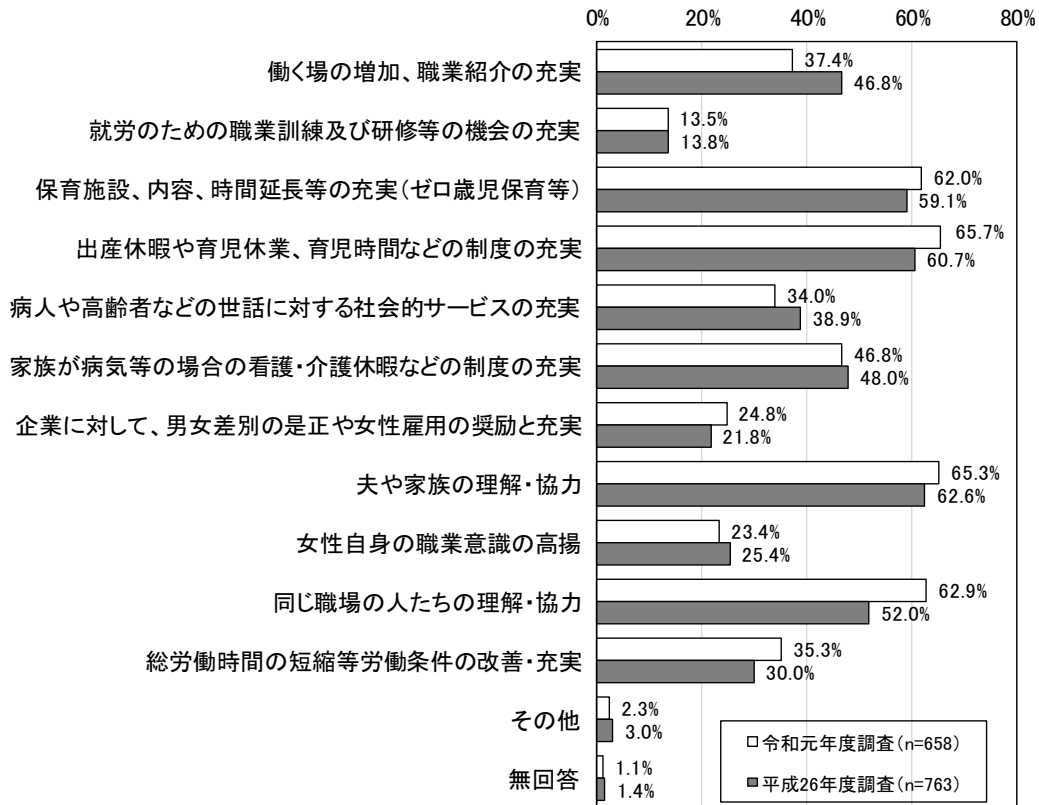
性別で比較すると、すべての項目で、「不当である」が男性よりも女性の方が多くなっています。中でも「(3) 昇進の格差をどう思いますか」で14.2ポイント女性が多くなっています。



問17 あなたは、女性が働き続けるために特に必要なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

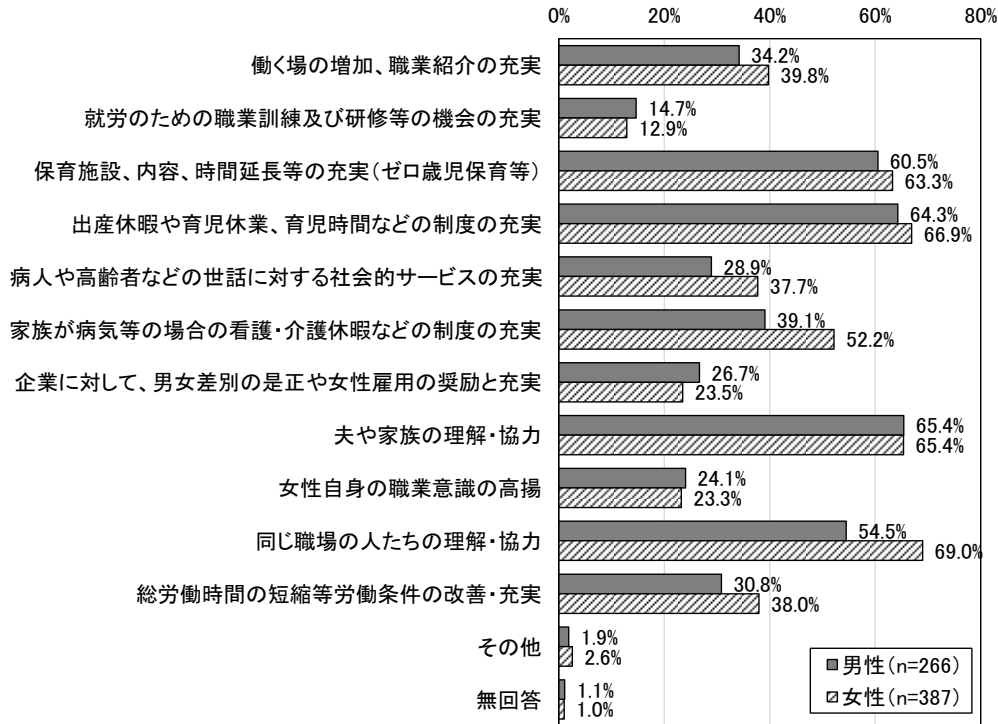
女性が働き続けるために特に必要なことでは、「出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実」が65.7%と最も多く、次いで「夫や家族の理解・協力」が65.3%、「同じ職場の人たちの理解・協力」が62.9%となっています。

前回調査と比較すると、「同じ職場の人たちの理解・協力」では10.9ポイント多くなっています。



【性別】

性別で比較すると、「同じ職場の人たちの理解・協力」では 14.5 ポイント、「家族が病気等の場合の看護・介護休暇などの制度の充実」では 13.1 ポイント男性よりも女性が多くなっています。

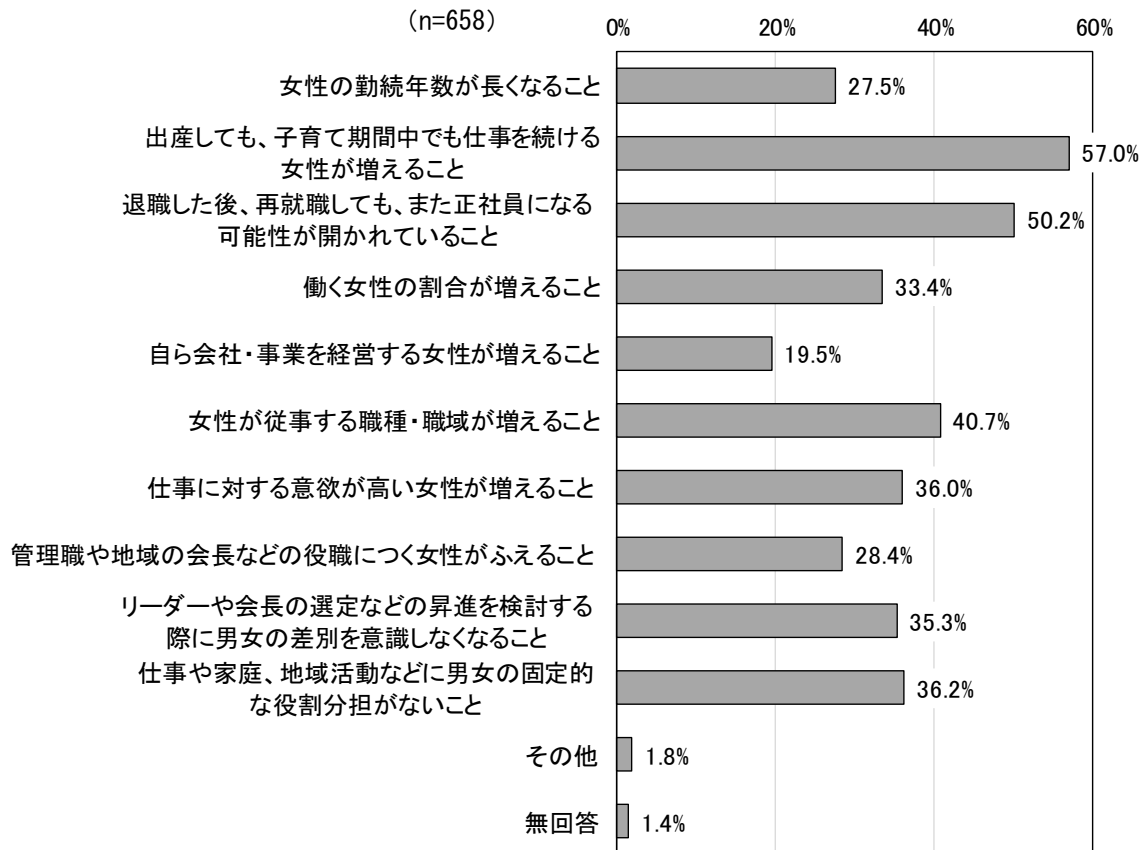


その他の回答

- 保育士、ベビーシッター
- 一人一人にむけた環境作り。お金が必要なのか。時間が欲しいのか。地位がほしいのか。
- 自身の健康管理
- 社会の子育て中の母に対する受容
- 年齢にあった仕事、経験を活かせる事があるはずだ
- 女性も男性も働き続けられる事が必要だと思います。
- 肉体的、精神的にきつくなっても意思を貫く覚悟。
- 本人のやる気
- 一律に働く条件を決めてしまう事には？一人一人の立場に合った働き方が出来る様に話し会える職場であってほしいです。
- 男性が家庭に入る、パート勤務化の推進
- 外仕事の場合におけるトイレ等。
- ワーキングシェアや在宅で働けるような新しいシステムの導入
- 高齢になると職場がぐっと減る

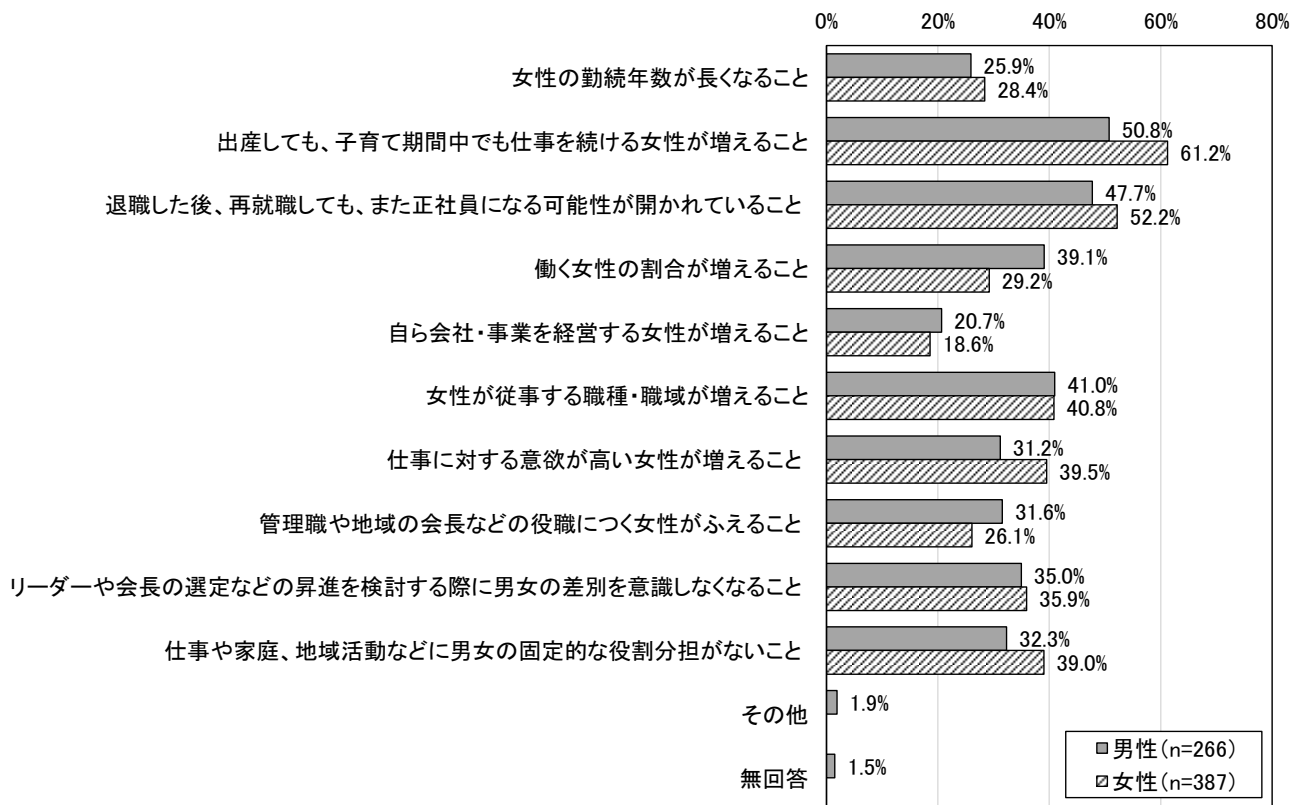
問 18 職業生活において女性が個性と能力を発揮できる社会を目指し、女性活躍推進法が施行されましたが、女性が輝き活躍しているとは、どのような状態になることだと思いますか。(〇はいくつでも)

女性が輝き活躍しているとは、どのような状態かでは、「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」が 57.0%と最も多く、次いで「退職した後、再就職しても、また正社員になる可能性が開かれていること」が 50.2%、「女性が従事する職種・職域が増えること」が 40.7%となっています。



【性別】

性別で比較すると、「出産しても、子育て期間中でも仕事を続ける女性が増えること」では10.4ポイント、「仕事に対する意欲が高い女性が増えること」では8.3ポイント男性よりも女性が多く、「働く女性の割合が増えること」では、女性よりも男性が9.9ポイント多くなっています。

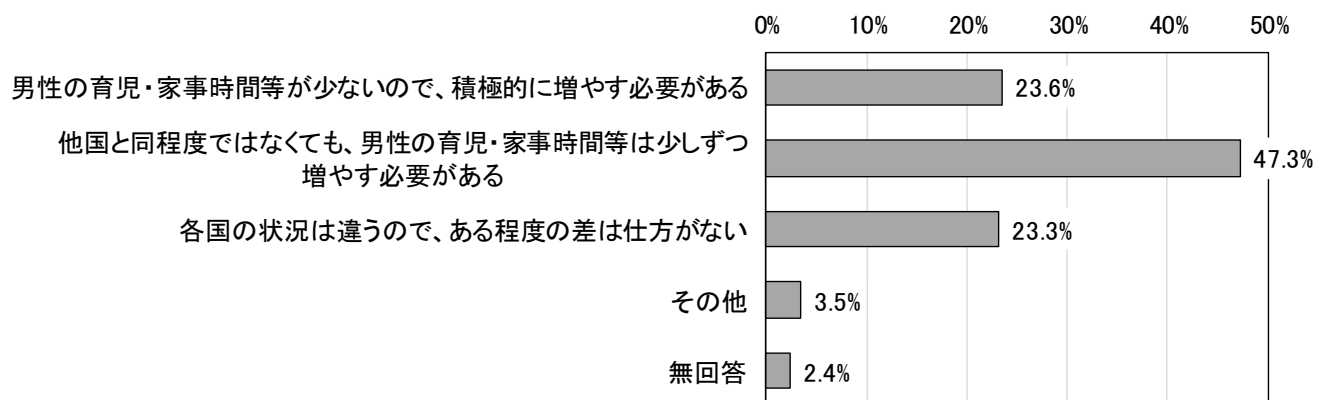


その他の回答

- 女性が活躍しなきゃいけない社会になりそう。女性の能力を高める→教育→雇用したくなる女性
- 生活のために働くのであって何が輝きなのかわからない
- 女性が職に誇りを持ち自信を持って働き続ける事
- 1～10の設定の状態になっていない社会環境そのものを変える事
- 女性だけの会社を作る
- 女性の働きやすい環境の場所が増えること
- 「女性だから」という理由で制限されることなく、1人1人がやりたい事を出来る社会であること。働く、働かないは個人の自由だと思う。
- 自身の個性、良さを生かして社会で発揮していく状態である事
- いきいきと働いていること
- 結婚・出産の意識が変わる
- 女性の政治家が増えること

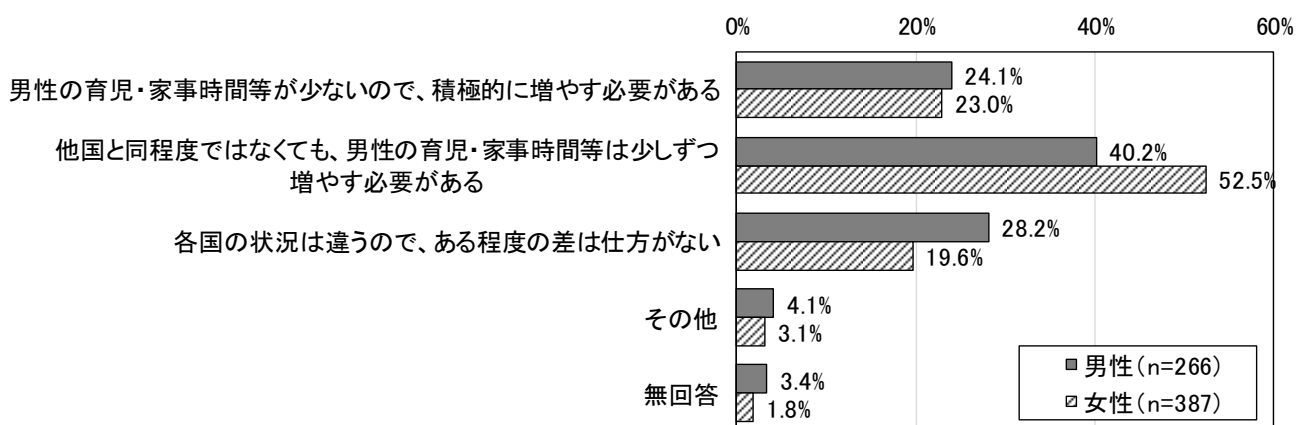
問 19 女性の活躍が求められる一方で、男性については、長時間労働や育休制度の利用が極端に少ない等の現状もあります。また、内閣府の「社会生活基本調査の国際比較」によると、日本は男性の育児・家事関連時間が、1日の内1時間23分なのに対し、イギリス、フランスは2時間30分以上、アメリカ、ドイツ、スウェーデン、ノルウェーは3時間以上となっています。このような日本の現状についてどのように思いますか。(1つだけに○)

日本の現状について思うことでは、「他国と同程度ではなくても、男性の育児・家事時間等は少しずつ増やす必要がある」が47.3%と最も多く、次いで「男性の育児・家事時間等が少ないので、積極的に増やす必要がある」が23.6%、「各国の状況は違うので、ある程度の差は仕方がない」が23.3%となっています。



【性別】

性別で比較すると、「他国と同程度ではなくても、男性の育児・家事時間等は少しずつ増やす必要がある」では、男性よりも女性が12.3ポイント多く、「各国の状況は違うので、ある程度の差は仕方がない」では、女性よりも男性が8.6ポイント多くなっています。



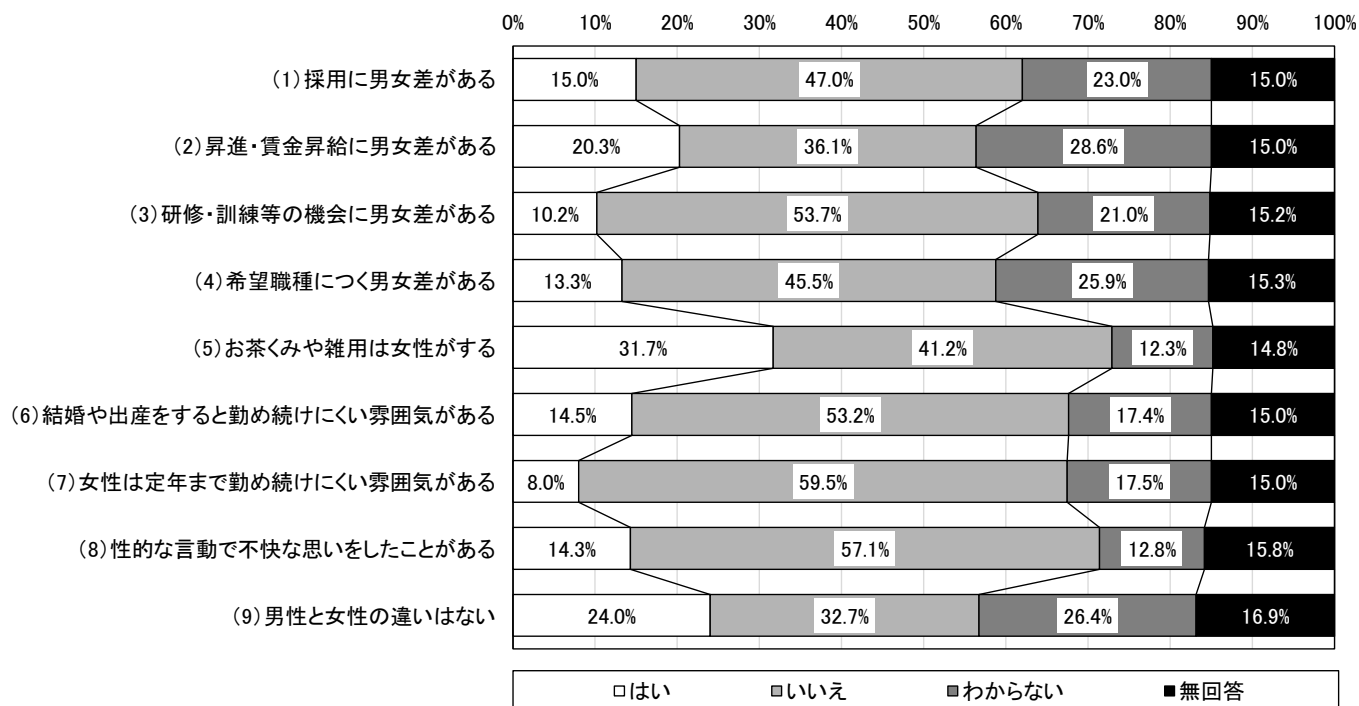
その他の回答

- 男性の長時間労働や育休制度の利用を改善するには性別を意識せず平等に見なければ進歩しないと思う
- 日本の構造的問題、日本の労働者は長時間労働しか知らない
- 社会的にまだ浸透していない考えだから無理
- 育児についての関心を高めるのは必要ではあるが現在の働き方では時間がとれなくともやむを得ない。働き方から変えていくべきである。
- そもそも長時間の労働をしなければならない労働環境に問題がある
- あくまで夫婦で決めるべき
- 各家庭の女性の就労状況により異なると思う。短時間で勤務しているなら家庭内の事は女性が多くすべき。ただし子育ては、父も積極的に参加して楽しんでほしい。(ただ子供と遊ぶだけでも母はとても助かるのです。)
- 男性は家事と育児のやり方が分からないようなので研修が必要。
- 定時に帰社が当たり前になれば変わると思う
- 育児や家事に参加してもらうことが良いことではない。時間があるからゲームをしたりパチンコ行っていたら気に入らない。
- 個人の方ではどうにもならない、できない
- 代わりの人材がないから仕方ない
- 男性の労働時間を見直し(短く)家庭の仕事ができる時間を増やす
- ベースが男性中心なのでまず意識改革をしないと難しいと思う
- 最低クラス
- 日本は仕事に拘束される時間が長すぎて男性が育児に参加したくてもできないと思うので勤務時間を減らすとか労働日数を減らさないは無理
- 男性の意識改革が必要と思います
- 男性の会社等勤務先の拘束時間の長さが問題
- 人生を生きる事は収入を上げる事ではない。価値観を変える事も必要

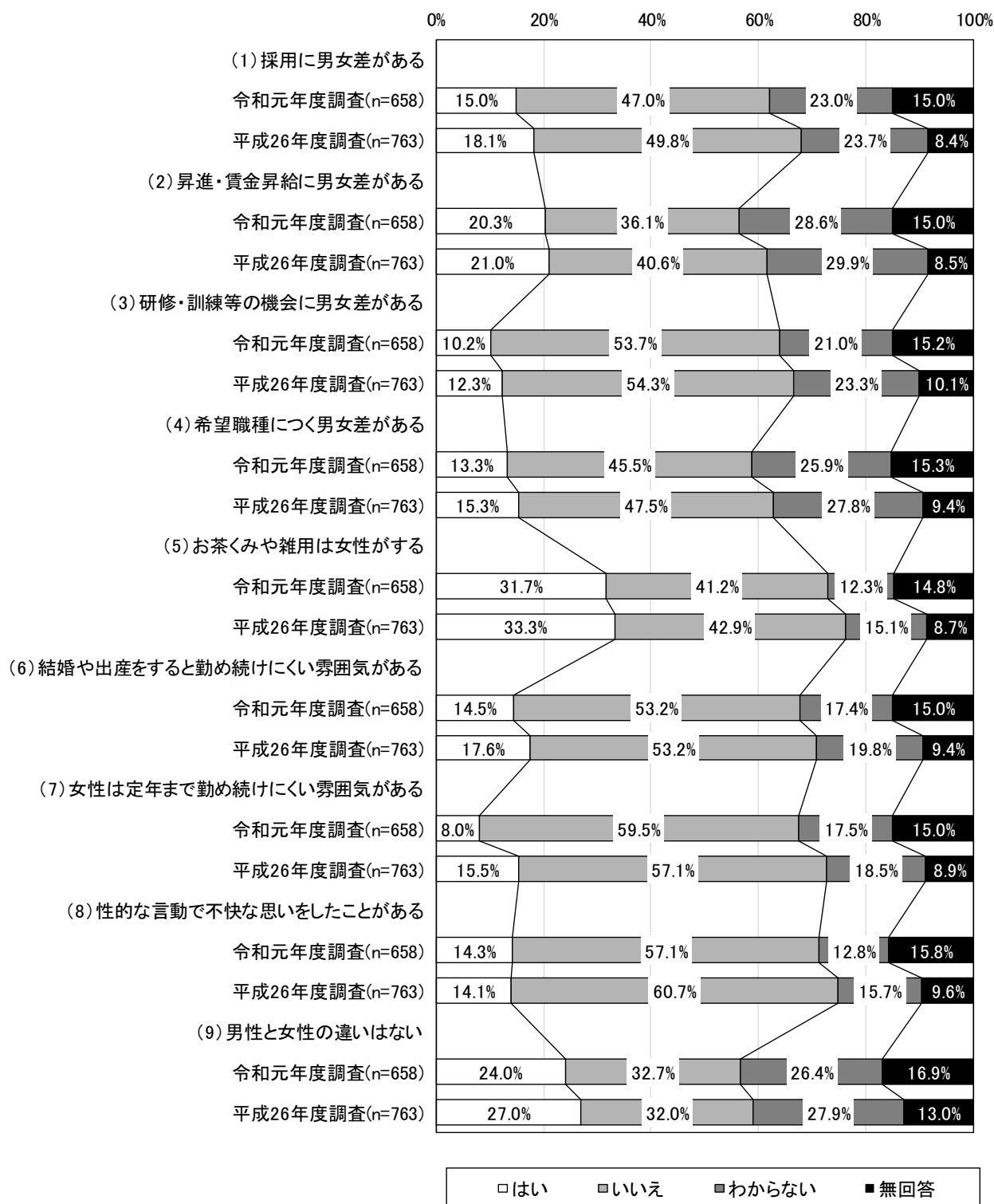
問 20 【現在、働いている方に伺います】

あなたの職場では、次のようなことがありますか。(それぞれ1つに○)

職場について「はい」の回答が多い項目では、「(5) お茶くみや雑用は女性がする」が3割を超えています。また、「いいえ」の回答が多い項目では、「(7) 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある」が最も多く、次いで「(8) 性的な言動で不快な思いをしたことがある」「(3) 研修・訓練等の機会に男女差がある」となっています。

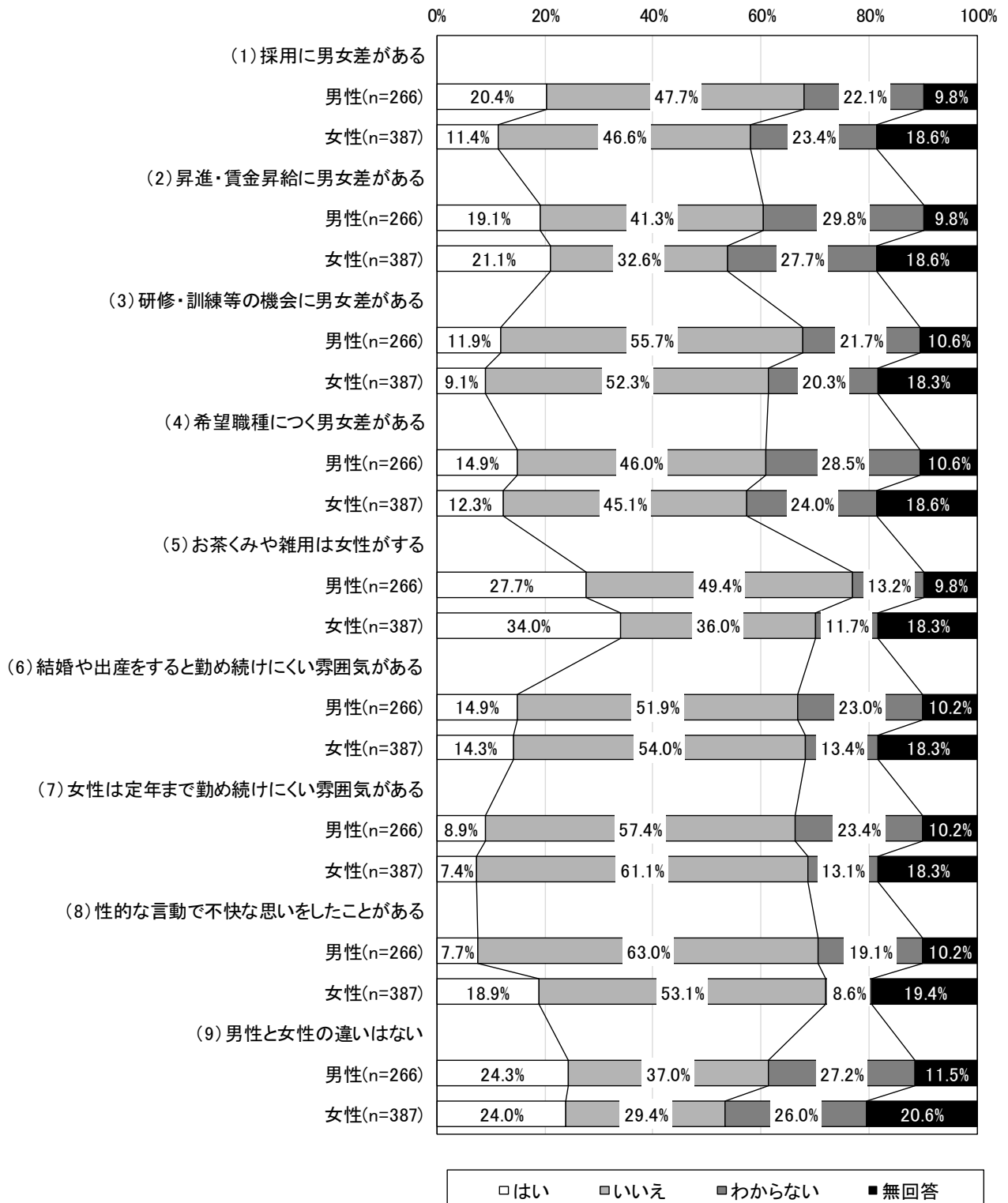


前回調査と比較すると、「(7) 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある」では「はい」が前回調査より少なくなっています。



【性別】

性別で比較すると、女性より男性の「はい」が多い項目は「(1) 採用に差がある」となっています。男性より女性の「はい」が多い項目は「(5) お茶くみや雑用は女性がする」「(8) 性的な言動で不快な思いをしたことがある」となっており、男女差のある回答となっています。



(10) その他の回答

- 役職への性別の「割合」により真に能力のある者がそのポストに就くと限らない
- 男性と女性で活躍できる場が違うため
- 男性にしかできない事、女性にしかできない事があると思う。平等というけれど能力の差を無視することが平等とは思わない
- 定年後のバイト生活
- 女性管理職の増加が望まれ試験に合格する女性が増えた（あまりできなくても）
- 制度に差はないが意識に差がある。
- 私の職場は、私1人である
- (9) いいえと答えたのは体力がいる仕事の為
- 高齢者の中には胸やお尻を触る人がいる。どこまで我慢するのでしょうか？
- 職人が働く会社なので女性が一人いるだけなので男女の格差が分かりづらい。
- 管理職の女性や先輩同僚に嫌がらせを受けている
- 自営業なので、どれにも当てはまらない
- ほとんどが女性なので何とも言えない
- どちらかと言えば女性優位の職場である
- 外仕事なので、女性に対してトイレ等に気を使わざるを得ない。
- 年配女性からのパワハラとも取れる言動
- 子どもの体調不良で早退しづらい欠勤
- 職場がこども園のため女性100%なので男女差はない
- 体力的な仕事（力仕事）は男が担っている
- 農業専従
- 女性社員がいないので明確ではない
- 力仕事ではどうしても女性が不利になるからそのことが差になることがどうにもならない。

問 21 生活の中で、「家庭生活」、「仕事」、「個人・地域活動（趣味・町内会の活動・ボランティア活動など）」の優先度について、あなたの現実と希望に最も近いものを選んでください。
 （現実と希望の「「仕事」を優先」～「わからない」それぞれについて1つだけに○）

現実

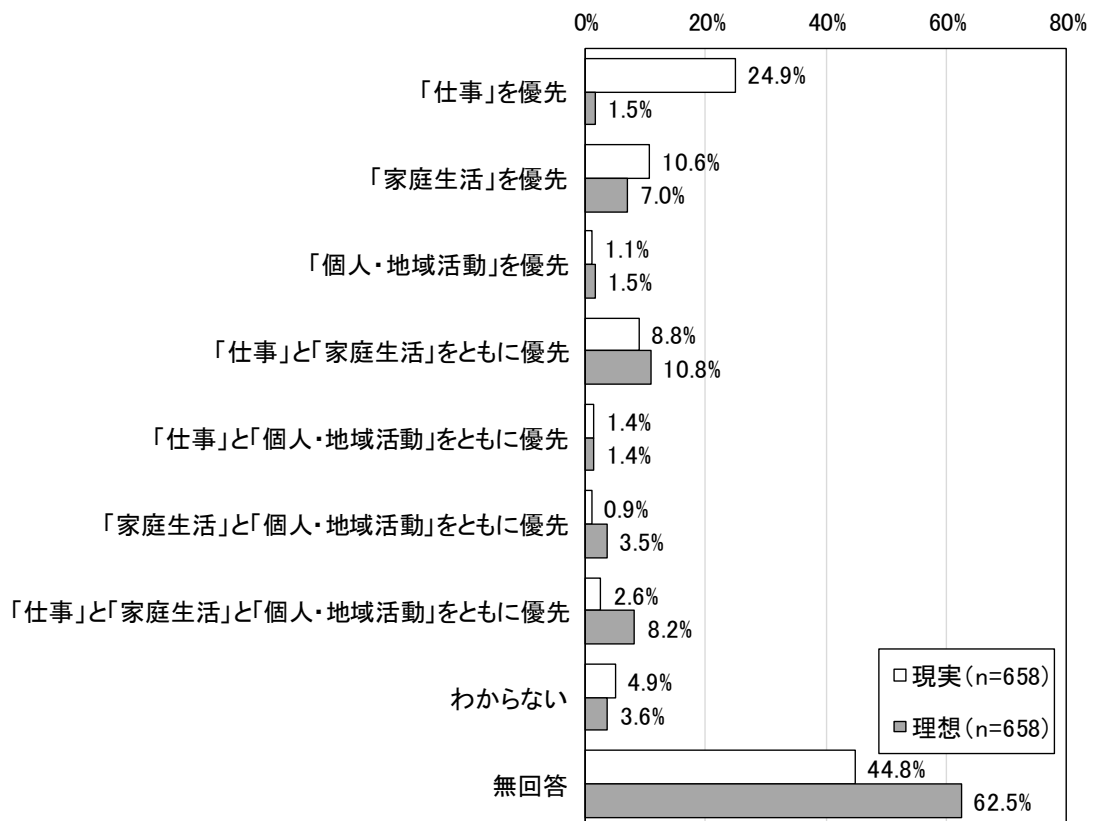
生活の中の優先度では、「「仕事」を優先」が 24.9%と最も多く、次いで「「家庭生活」を優先」が 10.6%、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が 8.8%となっています。

前回調査と比較すると、大きな差はありませんでした。

理想

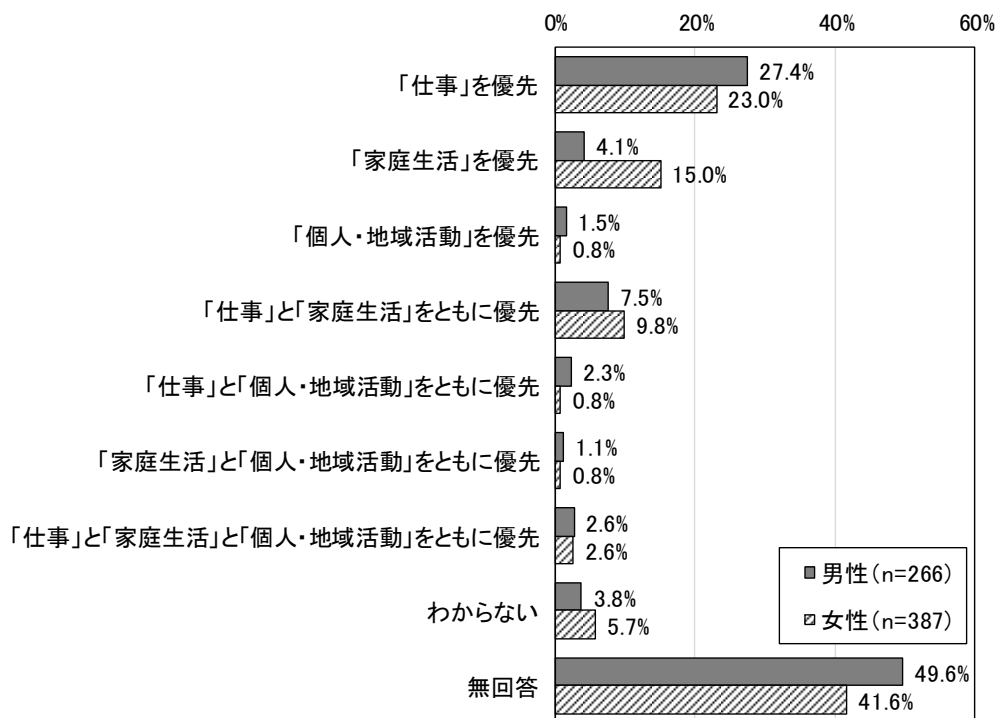
生活の中の優先度では、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が 10.8%と最も多く、「「仕事」と「家庭生活」と「個人・地域活動」をともに優先」が 8.2%となっています。

現実と理想で比較すると、「「仕事」を優先」が理想より現実が 23.4 ポイント多くなっています。



現実【性別】

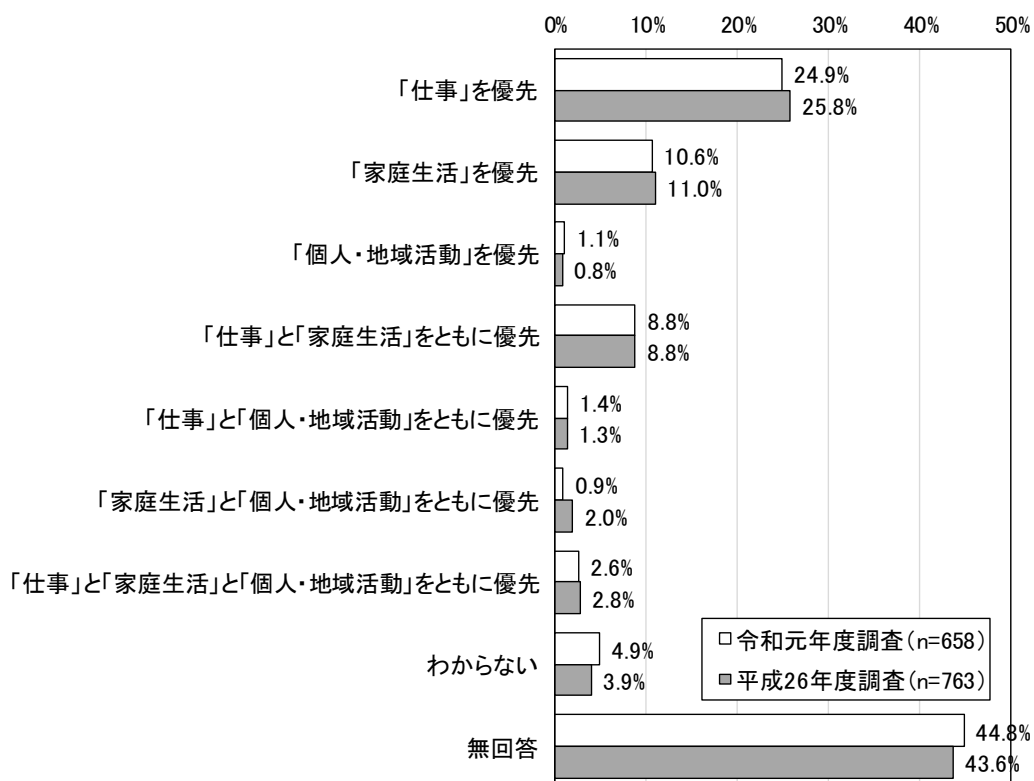
性別で比較すると、「家庭生活」を優先」では 10.9 ポイント男性より女性が多くなっています。



※複数回答が多いため無回答が多くなっています。

現実【前回比較】

前回調査で比較すると、あまり差はありませんでした。



※複数回答が多いため無回答が多くなっています。